

団体名：西東京わいわいネット

助成額：82,798 円、助成回数：2 回

【「未来につなぐ募金」助成事業活動の目的】

社会問題講座で、また日々の暮らしの中で、子どもの貧困は身近にあり、西東京市でも他人事ではないことを実感している。まずは、できることからとの視点で、子ども達への食事の提供をはじめた。予約するわけでもなく大々的に広報できたわけでもないのに、はじめから子どもたちが列をなして現れた。子ども食堂に「貧困」のレッテルがすでに貼られてしまっている状況を鑑み、どの子どもも参加しやすいように、一緒に調理する形をとり、「支援臭」が漂わないように工夫をしている。まずは、子どものお腹を満たして、穏やかなひとときを過ごし、スタッフの大人と信頼関係をつなぐことを最優先に事業展開してきた。同時に地域や行政の理解を得ることに重点を置き、広報に努めてきた。丸3年経過する現在、メンバーがいろいろな場所（行政や社会福祉協議会、市民団体など）に呼ばれ「地域をつなぐ」「子ども食堂の活動から見えてくるもの」というような話をする機会が増えている。同市にある武蔵野大学からは、はっきりなしに学生の見学があり、卒業論文のテーマになったり、今年の2月には、学生たちの子ども食堂も行われることになった。また、民間がやっている事業であっても、子ども食堂への問い合わせや寄付の連絡が市にくることも多く、昨年からは、子ども食堂の担当部署も「子育て支援課」に決まり、7ヶ所に増えた子ども食堂の連絡会も子育て支援課の声かけで行われている。連絡会を充実することで、市内さらに子ども食堂が増えるのを期待している。

【「未来につなぐ募金」助成事業活動のまとめ】

収入源は、開催日の大人の参加人数プラス寄付金です。開催当日まで大人も子どもも参加人数がわからないため、助成を受けるまでは、限られた予算のなかで、材料費は、できるかぎり抑え気味に購入していました。今年度より東都生協より商品の提供を受けられるようになり、デザートに果物や缶詰のフルーツを添えたり、クリスマス時期には余った予算でケーキ代に費用をまわせたりと。食事の内容がアップしました。子どもはもちろんのこと、関わるスタッフも感謝しています。子どもたちに主体的に調理に関わってもらいたいので、時間をとられるメニューの時はスープを提供のインスタントスープにしたりということができるようになりました。また、子ども食堂の終了後の、学習時間を終えた子どもたちには、ごほうびにお菓子を配ることができました。東都生協の助成制度により、子どもたちはもちろんのことスタッフも感謝しています。

